



発行責任者

病院長

岡野友宏

編集責任者

広報委員長

高橋浩二

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151

ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

食欲の秋！！ -お口のトレーニングをご存知ですか？-

口腔リハビリテーション科・科長 高橋 浩二

皆様、食欲の秋を楽しんでいらっしゃいますか？ 夏に消耗した体力を取り戻し、厳しい冬に備えて食物をたくさん摂るために、動物的な本能で秋に食欲は増進するといわれています。実りの秋、収穫の秋と言われているように山には山の幸、海には海の幸が豊富で、つつい食べ過ぎてしまうこともあるかもしれませんが、「天高く馬肥ゆる秋」-メタボ(生活習慣病)に気をつけながらも旬の美味しい食物を楽しみましょう。ところで「天高く馬肥ゆる秋」とは元来は“放牧していた馬が、たっぷり草を食べて肥ってくる時期-すなわち実りの秋の時期になると中国北方の匈奴(きょうどという現モンゴル周辺に住んでいた騎馬民族)が、実りを略奪しに南下するので警戒せよ”との意味の中国北西部の農民の諺に由来しているようです。ほのぼのした感じがする語句が実は襲ってくる敵を忘れるなという警鐘だったとはと意外に思われる方もいらっしゃるでしょう。

さて、食欲の秋を楽しむためには食べ物をしっかり噛むこと(咀嚼)ができ、また飲み込むこと(嚥下)がスムーズにできることが欠かせません。よりスムーズに咀嚼、嚥下することをご希望の方はお気軽にご相談下さい。私ども昭和大学歯科病院の歯科医師が全力でサポートします。

先だっの北京オリンピックの後で開催されたパラリンピックは記憶に新しいことだと思います。義肢(義足などのこと)を装着した選手が見事に跳躍したり、短距離を駆け抜けた場面や記事をご覧になった方もたくさんいらっしゃると思います。義肢を自分の体の一部として使いこなすには丁寧に手入れをし、きちんと体に装着することはもちろん使い方について適切な指導を受け、トレーニングを十分行うことが必要であろうことは容易に想像できます。

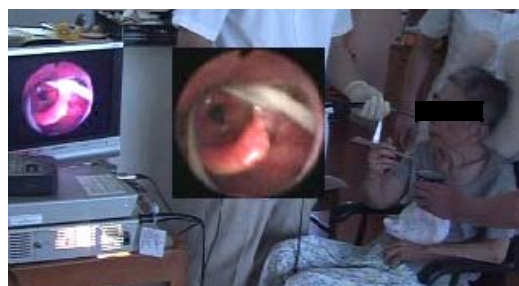
ではお口の義肢といえる義歯(入れ歯)についてはどうでしょうか？ 使いこなすためのトレーニングは十分ですか？

下の写真は訪問診療において嚥下内視鏡検査を行っている時のもので、患者様が食べ物を実際にどのくらいしっかり咀嚼しているか、スムーズに嚥下しているかを評価しています。咀嚼するためには舌を使って食べ物を噛み合わせる場所に送り、さらに唇や頬の筋肉を緊張させて食べ物が外側に落ちないようにしながら下の顎を上手に動かす必要があります。咀嚼を行った後には、口やのどを複雑にしかも絶妙なタイミングで動かすことによって飲み込み-すなわち嚥下を行います。

私たち口腔リハビリテーション科は豊富な臨床経験と最新の知見に基き、各種機能検査を行いながら、咀嚼や嚥下を評価し、ご自分の歯はもちろん治療された歯や義歯も含めてお口全体を最大限使いこなすための方法やトレーニング法を患者様にご提示しています。今日は咀嚼、嚥下についてじっくり考えながら味覚の秋を楽しみ、秋の夜長を過ごされるのはいかがでしょうか。



おにぎりを咀嚼後に、嚥下する直前。咀嚼は不十分。(画面中央は内視鏡画像を合成)



そうめん。ほとんど咀嚼されていない。(画面中央は内視鏡画像を合成)

口腔リハビリテーション科 紹介

口は、食べる、話す、呼吸するなどの機能を担う場所です。口腔リハビリテーション科では、摂食嚥下障害(食べること、飲込むことが困難)、言語障害(発音しにくい音がある、赤ちゃん言葉が治らないなど)、閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群(寝ている時に呼吸が止まる)のお口の3つの機能障害に対して最先端の診断・治療を行っております。とくに摂食・嚥下障害と言語障害については歯科界の中のトップリーダーとして豊富な治療経験を有し、遠方からいらっしゃる患者様も少なくありません。摂食・嚥下障害は、赤ちゃんの哺乳障害、脳性麻痺など障害を持つお子さん、脳梗塞などの後遺症のため食べられなくなった方、口の中の悪性腫瘍などによりお口の手術を受けた後に食べることが難しくなった方、ご高齢になって食べられなくなった方と幅広い年齢層の方々への対応をしております。障害を持つお子さんについては当科専任スタッフ(綾野)のほか本学口腔衛生学教室向井美恵教授をはじめ同教室員が診療スタッフとして参加しています。また病棟での入院下での訓練や、通院困難な方のご自宅や施設への訪問診療も積極的に行なっております。



補綴的機能補助装置

言語障害は、2名の言語聴覚士が訓練を担当しております(詳細は言語治療室の記事をご覧ください)。

閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群に対しては、当院総合内科と連携しながらマウスピースによる治療を行っております。



スタッフ一同、患者さんの症状やお困りのことに対して丁寧に対応させていただいております。当院に通院されていらっしゃる方だけでなくご家族やお友達でお困りの方がいらっしゃいましたらどうぞ口腔リハビリテーション科にご連絡下さい。

もっと情報をお知りになりたい方は口腔リハビリテーション科ホームページ

<http://www.okuchidetaberu.com/>をご覧ください。

(口腔リハビリテーション科 綾野理加)

言語治療室 紹介

歯科病院では、口腔リハビリテーション科の中に言語治療室があり、言語聴覚士が専門的評価と訓練を担当しています。言語障害の中でも「発音がはっきりしない」「滑舌が悪い」「赤ちゃんことばがなおらない」などの発音障害を中心に治療を行っています。発音障害は、歯並びや咬み合わせが悪い、舌の裏のひもが短い(舌小帯短縮症)、舌などを手術した後や脳卒中後に話づらいなど様々な原因でおこります。また、口の中には異常がないけれども、ことばを覚える過程で誤った発音を覚えてしまった方(機能性構音障害)もお子さんから成人の方まで多く受診されています。ご家族がたまたま歯の治療を受けていて、院内のポスターをみてお子さんの相談に見える方、学校や病院から紹介された方、ホームページを見て相談にいらっしゃる方などいろいろです。

言語治療は、1回1時間程度の個人訓練で行います。お子さんから大人の方までその方の症状にあわせて細かなステップを積み重ねながら指導していきます。当病院では、毎月約140人位の方が言語訓練を受けていらっしゃいます。無意識に正しい発音ができるようになるには、およそ1年位かかりますが、一度覚えた正しい発音は決して忘れることはありません。最近では、同じ障害を持った方同士が語り合う場としてグループ訓練にも取り組んでいます。歯科病院ならではの特色としては、補綴発音補助装置という発音を助ける特殊な義歯を作りながら言語治療を受けることができます。これは、歯科のよい点を生かした言語治療といえます。また、指しゃぶりや舌癖などの異常習癖のある方や、口や舌の力が弱い方のための口腔筋機能療法は専門家も参加して行っています。このように多くの専門職との連携のもと多種多様な言語治療が行えるというのが歯科病院の言語治療室の特色といえます。

「話せる」ということは、あたりまえのことなので普段は深く考えることはありません。しかし、ひとたび病気や手術をして「話せない」状態になってみると、「話せる」ことのありがたさを痛感するという話をよく聞きます。また、「話せない」ということで、大きなストレスを感じて生活していらっしゃる方もいらっしゃいます。ことばのことで何かお困りの際は、口腔リハ科の言語聴覚士に是非お声をおかけ下さい。

(言語治療室 山下夕香里)



言語治療士と筋機能療法士

歯科医療最前線 矯正歯科：第一回 『見えないものを見る！』
 : 歯科用コーンビームX線CTを用いた三次元矯正診断
 矯正歯科・科長 榎 宏太郎

本号から3回にわたり、矯正歯科が誇る最新治療のいくつかをご紹介します。

人は誰も、目には見えないものを想像するというのがなかなか難しい場合があります。感情や信念、危険性や将来性、等々。数え始めれば、この世の中では見えないものや想像できないものの方が多いのかもしれないね。でも、診療においては、そう言うてはおられません。できるだけ正確に病変の状態を把握しなければ、的確な治療法を選択することができなくなってしまうからです。

人の身体の中の状態を見るために、我々は様々な方法を用います。ご存知のように、レントゲン写真もその代表的な道具です。目では見えないものを我々に教えてくれます。通常のレントゲン写真は平面的なものですが、もし、身体のあらゆる部分を、ありのままの立体的な像として見たり、それを割って中身を見ることができれば、どんなに便利な事でしょうか。

二十年ほど前、我々が三次元的な画像診断の重要性を唱え始めた時代には、多くのドクターはその必要性を想像することさえできませんでした。恐らく、それまで見たことが無かったからでしょう。

本矯正科では、日本で初めて、顎顔面全体を三次元的に捉え、あごの骨の内部を詳細に診断するコーンビームX線CT装置を共同開発し、日常の臨床に用いております。

歯の周囲の骨に悪いところが無いか、関節の病気は無いか、余分な歯が骨の中に埋まってはいないか、咬むための歯の位置がどこにあるべきか、など、普通のレントゲン写真ではなかなかわからなかったことが一目で判断できるようになりました。



歯科用の高精細CBCT装置



三次元画像

愛煙家、嫌煙家の皆様に。 敷地内完全禁煙のお知らせ

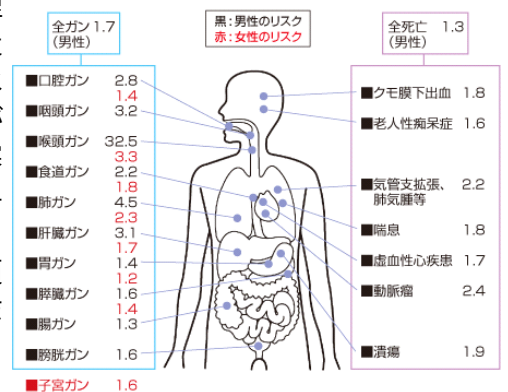


当院では愛煙家の患者様のために喫煙箇所を設けておりましたが、平成21年1月末をもちまして敷地内完全禁煙を実施致します。タバコの煙の中にはニコチン、一酸化炭素、タールの他、カドミウム、砒素、アンモニア、シアン化水素、さらにはダイオキシンなど200種類以上の有害物質が含まれ、がんの発生、動脈硬化による心筋梗塞や脳梗塞の発症、消化器潰瘍の発症などのほか口腔粘膜疾患、歯周病にも深く関与することがわかっています(図)。

嫌煙家の皆様には今まで長きに渡り、当院の分煙の取り組みにご理解頂き、誠に有難うございました。また愛煙家の皆様にはご理解、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

(歯科病院広報委員長 高橋浩二)

非喫煙者を1.0とした喫煙者(男性・女性)の死亡率



平山雄：病態生理、7(9): 695, 1988

編集後記 「公開講座・健口フェスティバルについて」

今回の健口フェスティバルをふりかえって、初めての試みですし反省点もいっぱいありますが、無事つつがなく終了してほっとしたというのが実感です。恒例の公開講座も観客が1.5倍になり、衛生士さん達の健口体操も好評でしたし、初めての院内コンサートも1階ロビーを満杯にしました。また、技工体験ではお子さん達が目を輝かせ、健康相談や噛み合わせ相談も評判でした。事務部や栄養科の方々の鮮やかな連携により、焼きそば・焼き鳥・ヨーヨー釣り・バザーなど見事にやり遂げたと思います。駅からの歩行者に目立つように大きな看板も作製しましたが、監視室の協力により提灯をつるし、お祭り気分も盛り上がりました。当院の全部署の人たちにこんなにも協力をいただいて、本当にみなさんありがとうと心から言いたいです。「継続は力なり」ですので、来年はもっと盛大に行いたいと思います。なお、バザー等の収益金(67,671円)については、大田区の福祉関係に寄付させていただきます。(K.A記)

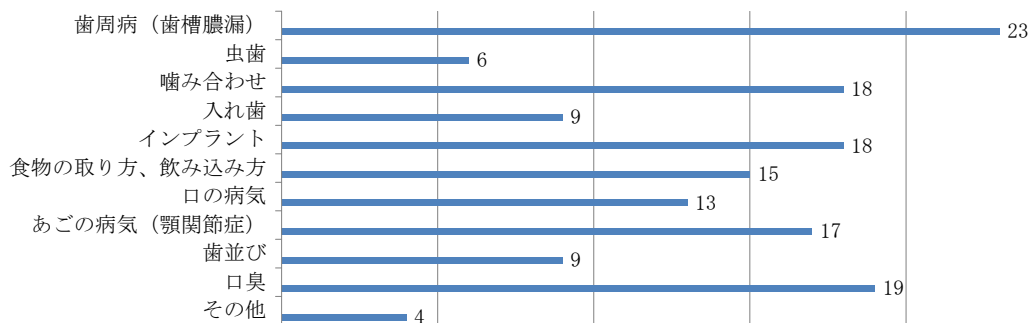
公開講座を開催して

平成20年11月8日(土)に、「第11回公開講座」を開催いたしました。
 講演1:口腔リハビリテーション科 高橋 浩二 教授 「いびきにご注意!!」
 講演2:歯科補綴学 馬場 一美 教授 「意外と怖い歯ぎしり」
 講演終了後:衛生士による健口体操



長時間の公開講座にもかかわらず、講師の説明を熱心に聞く姿が多く見られました。今後もアンケート調査結果をもとに、より多くの皆様が普段から疑問に感じていること、本当に知りたいこと、興味があることをテーマに絞り、公開講座を開催していきたいと思います。

Q.今後どのようなテーマが良いとお考えですか？
 (複数回答可)



院内コンサートを開催して

平成20年11月8日(土)に、「第1回院内コンサート」を開催いたしました。
 出演者:院内外によるボランティア 計21名
 演奏曲目:弦楽アンサンブル「Belle of the Ball」他
 フルートアンサンブル「カノン」他
 木管アンサンブル「木管五重奏 変ロ長調」他



<患者様の感想>

- ・素敵なコンサートでした。2回目を楽しみにしています。
- ・病院でミニコンサートはすてきです。身も心も癒されます。1年に2度位いかがでしょうか。
- ・素晴らしかったです。これからもずっと続けて頂けるようお願いしております。ありがとうございました。感動しました。
- ・親しみやすい曲を選んで頂き、この後の興味へとつながりました。

